



21日(水)に、旭小学校3年生が、海の生き物の授業を受けました。講師は、観音崎自然博物館学芸部長の山田和彦先生。様々な海の生き物のTシャツがトレードマークです。(ちなみに、この日はクジラ類の図柄でした)

授業の内容は、三浦の海に生息する生き物についてのクイズと、海の生き物の飼育方法が中心でした。

子どもたちは、先生が出題する、海の生き物クイズに次々答え、先生を驚かせていました。

その後、実際に学校内に設置、飼育されている水槽まで

行き、具体的なエサや食べさせ方についてのお話をさせていただきました。「サメは口の奥まで切り身を入れないと食べないが、のどを傷つけて死なせないように」「冷凍されたエビのペーストのようなものを、魚の口や体の大きさに合わせてあげれば、食べるのではないか」等のアドバイスに、子どもたちだけではなく、参加した教員も真剣な面持ちで聞いていました。

この日は、いつも網にかかった魚を学校に持ってきてくれている漁師さんも、授業を参観していて、山田先生とも情報交換をしていました。海洋教育が、学校を中心に地域で盛り上がっている様子がよくわかりました。



同じ21日、三崎小学校5,6年生が、「海藻おしば教室」に参加しました。これは、日本海洋レジャー安全・環境協会主催で、海藻おしば協会の協力で実施したものです。

最初に、おしばの実物(ワカメ、モズク、アカモクなど)が紹介され、その後、DVDで、海藻の存在の大切さを学びました。「海藻は、汚れた海の水をきれいにしながら、生き物を育てる」という言葉が印象に残りました。

続いて、おしばの作品例が、紹介された後、いよいよおしばづくりが始まりました。まず、生徒一人ひとりが家族

等にしたのはがきを水に浸します。そして、その裏面の白紙の部分に、選んだ海藻を広げ(柔らかい海藻は、1mmほど水に浸した状態の方がやりやすいそうです)、つまようじで丁寧に広げていきます。あとは、自分たちの好きなデザインを作り上げていきました。子どもたちは、海藻の種類の多さに驚き、海藻の感触を楽しみながら、たいへん熱心に取り組んでいました。子どもたちの作品は、1週間後に完成して、送られてくるそうです。

5年生は、昨年、観音崎自然博物館の見学をした学年、6年生は、アマモの授業を受けた学年ということで、海に関する関心はたいへん高く、授業も盛り上がりを見せていました。



(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育についてのお問い合わせは、本研究所まで (046-854-9443)